桜の解説

染井吉野（そめいよしの）

花弁は 5 個。おしべは 36 本あり、めしべは 1 本で基部に微毛がみられる。花は、微淡紅色で開花後に白色で葉が出る前に花がたわわになり華やか。大中山小学校周辺には、この品種が多く見られる。てんぐ巣病に弱い品種。　5 月上旬が見頃

大山桜（おおやまざくら）

花弁は 5 個。おしべは 38 本あり、めしべは 1 本。紅紫色の花が咲く。花と葉が同時にでるものや、花が葉より先に出て咲くもの、花の時期が長いものなど多様。葉などに粘りがあり、さわるとベタつくのが特徴。
4 月下旬から 5 月上旬が見頃

枝垂染井吉野（しだれそめいよしの）

枝が枝垂れるほかは、染井吉野と特徴は変わらない。大島桜と枝垂桜の雑種と考えられる。花弁は 5 個で淡紅紫色。

5 月上旬が見頃

伊豆吉野（いずよしの）

染井吉野が、大島桜と江戸彼岸との自然交配してできた品種であることを証明する過程で、生まれた品種。
染井吉野に比べ、花は大きくて白色が強く、めしべの基部には微毛がみられないことなどで見分ける。
5 月上旬が見頃

ウコン（うこん）

江戸時代から栽培されていた桜。花弁は 7 ～ 18 個で、外側は淡黄緑色、先端が淡紅色になることもある。内側は淡黄色で、肉眼ではほとんど白色に見える。ピンク色ではない桜を代表する品種。
5 月中旬から下旬が見頃

糸　括（いとくくり）

江戸時代から栽培されていた桜。花弁は 10 ～ 15 個で、淡紅色の花が束になって下垂する様が、糸で括ったように見えることから、この名がついたという。芳香がよい品種でもある。
5 月中旬から下旬が見頃

雨　宿（あまやどり）

花弁は 10 ～ 15 個で、白色だが外側に桃色が残る。花は下向きに咲く特徴があり、また、葉の展開と同じくして咲くため、葉に隠れて咲いている様を、雨宿りする姿に例え、この名が付いた。
5 月中旬から下旬が見頃

関　山（かんざん）

花弁は 20 ～ 45 個で不規則にねじれる。おしべは 30 ～ 50 本、めしべは 2 本ある。枝が内側に向かって弓なりに曲がる特性があり、実を結ばないため、接木による培養で今日まで受け継がれてきた。
5 月中旬から下旬が見頃

八重紅枝垂（やえべにしだれ）

明治時代に、仙台市長だった遠藤庸治が仙台市内に植えたため、別名「遠藤桜」ともいわれる。花弁は 12 ～ 20 個。おしべは約 60 本あり、めしべは 1、2 本。谷崎潤一郎が愛した桜でもあり、花の色が濃く、美しい八重咲きになる。
5 月中旬が見頃

千島桜（ちしまざくら）

タカネザクラの変種といわれ、花柄や葉柄に微毛がみられることで区別する。千島地方に自生することからこの名がついた。花は淡紅色から白色。ちなみに横津岳ではタカネザクラがよく見られる。
5 月下旬から 6 月上旬が見頃

菊枝垂（きくしだれ）

50 個以上にもなる花弁が集まり、大きな花となって、下向きに咲く八重桜。花は淡紅色。
菊の花のように咲く姿から、この名が付けられた。

5 月中旬から下旬が見頃

南　殿（なでん）

花弁は 12 ～ 15 個あり、めしべは 1 本。花は淡紅紫色の美しい八重咲きになる。
松前町にある「血脈桜」と呼ばれる桜の古木もこの品種である。

5 月中旬から下旬が見頃

姫高砂（ひめたかさご）

花は淡紅色で、花びらの付け根部分の紅色が強くなる。花弁は 12 個ほどで、美しい八重咲きになる。
高砂と同系統だが、やや花が小さいことから、「姫」が付けられたと考えられる。
5 月上旬が見頃

桜を楽しむ

日本でみられる桜の品種は、600 種をこえるといわれています。
花の時期や色、樹形などにそれぞれ特徴がありますが、まずは風や空気の温かさをゆったりと楽しみながら、花の美しさを見てみませんか。

監修　「桜守」浅利政俊
製作　七飯町歴史館
電話　0138-66-2181

NANAE HISTORICAL MUSEUM